下関市総合計画審議会
第１回にぎわい部会
議事要旨

日　　時　令和６年４月１８日（木）午前１０時～１１時４５分
場　　所　下関市役所本庁舎５階大会議室
出 席 者　乙部委員、河村委員、中原委員、五十嵐委員、西本委員、
　　杉浦委員、松野委員、原田委員、妹尾委員、渡壁委員、平岡委員
オブザーバー　関係部局
議題
　　１　部会長・副部会長の選任

　　２　第３次下関市総合計画（素案）について

１　部会長・副部会長の選任

〇部会長に乙部委員、副部会長に松野委員が選出された。

２　第３次下関市総合計画（素案）について

議論に先立ち、事務局より渡壁委員からのご意見等について説明と回答。

【第２章交流（観光・文化・スポーツ）　第１節文化・スポーツの振興】

素案を用いて、事務局より説明。

（委員）

〇要望　素案を差し替える際は色を変えるなどしていただきたい。

（事務局）

〇今回は素案の差替えが生じたが、素案のスタートを一緒にして、今後の修正はエクセルで管理するので、差替えは生じない。

（委員）

〇１１ページ（１）芸術文化活動の推進及び環境の整備・充実①芸術文化活動の推進と（２）スポーツ活動の推進及び環境の整備・充実①　誰もが参画できるスポーツの推進に「中学校部活動の地域移行・連携の推進」が入っている意図を教えていただきたい。

（観光スポーツ文化部）

〇芸術文化では文化系の部活動に関して、スポーツではスポーツ部活動に関しての記述となっているので、記載を修正する。

【第２節観光・レクリエーションの振興】

素案を用いて、事務局より説明。

（委員）

〇２２ページに旅行者に対する利便性の向上に DX の推進があるが、web 強化が重要。自分自身本市に戻り、ポテンシャルを感じており、リブランディングや観光者目線でユーザー体験を作り観光資源になると思うので、web 強化など新しい観点も入れていただくと、今後、下関も勝っていけると考える。受け入れ整備の外国人対応については、それが本当に利用があるのかを考えることが重要で、外国人が使用しているサイトに下関市の情報を掲載する方が効果的ではないかと思うので、そういったことも含めて検討いただきたい。

（観光スポーツ文化部）

〇WEB で旅前に情報収集して市に訪問される意味合いとして理解した。ご指摘のとおりであるが、総合計画には具体的な事業レベルのものは書けないが、表現上ＤＸの推進などで旅行者に対する具体的な取組に落とし込む際には、web でのプロモーションなどに重点を置き、戦略的に取り組む記載に修正する。

（委員）

〇意見　観光の移動について、二次交通の充実が観光者にとって大事だと思うので、もう少し記述されると良い。車で観光に来る人も多いので、駐車場の状況が確認できるような取り組みも必要かと思う。

（観光スポーツ文化部）

〇二次交通や観光者の駐車場に関しては、第２章に記載するのかを検討したい。

（委員）

〇意見　いろいろな都市に住んだ経験の中で、下関は自慢できる観光資源が多いが、市民が認識していないのではないか。素案を読んで、観光客を呼び込む熱量が感じられなかった。関門海峡や火の山からの景色等は厳島神社の景色より素晴らしい。その他にも魅力的なスポットが多くあるので、点をつなげていくことが大事である。観光者目線だと下関駅前ではバスの乗り方、新下関駅からの二次交通について困っている人も多い。もっとつなげていく公共交通であるべき。人を呼び込む観点で発言した。

（観光スポーツ文化部）

〇熱量不足のご指摘については、どのような表現が良いか検討する。火の山や海響館がこれから変わっていくので、目に見えて変わるところも増えていく。そういったあたりで熱量を感じていただけるよう具体化したいと思う。

（部会長）

〇10 年前よりもだいぶ変わってきたとは思うが、インフラは年々悪くなっていると感じている。

（委員）

〇観光レクリエーションについて、市には魅力がたくさんあるので、これらをいかに生かしていくかが大切。現在進行形で進んでいる状況を計画にわかりやすく盛り込むことで市民の理解も深まる。質問として計画の対象やその状況がどのように盛り込まれるのかが見えづらい。

（観光スポーツ文化部）

〇文化・スポーツ・観光については、対象が市民なのか観光客なのかが明確な部分は示せればよいが、例えば総合体育館については市民も観光客もすべてに利用していただくことを考えているので、ターゲットの明確な表記は下位の計画になるかと思う。

（事務局）

〇上位と下位計画の違いについて、火の山に関する事業は実際に動いており、今度二次交通ま

でやる将来的な計画がある。海響館もアシカの展示場ができるなどリニューアルする。総合体育館のイベント等も書き方は検討できると思うので、委員の意見を踏まえ、記載を修正する。

（委員）

〇MICE について、積極的に交流人口を増やすことで、市の活性化につながっていきやすいところがあると思う。総合計画を作った時に一番読んでほしいのは市民の方。観光客に自然にお声掛けできることができるまちになればよいと思う。

（委員）

〇市民アンケートをしっかり分析して、計画に落とし込んでいくことが大事だと思う。総合計画を説明する際に、「この施策はアンケートの結果を踏まえたものである」など記載があれば、わかりやすいと思う。

【第３節　みなとのにぎわいの創出】

素案を用いて、事務局より説明。

（部会長）

〇目標指標の欄が空欄となっているが。どのような内容が入る予定か。

（事務局）

〇現在計画に掲載されている９８の指標を見直して、施策の方向性が決まれば、５０～６０の指標を提案する。設定の際は、目標を達成することでどのような成果が得られるかを検討していく必要があると考える。今はまだ検討中なので、３回目の部会にはお示しする。

（副部会長）

〇26 ページの重点事業「公共空間の利活用の推進」とはどういったことか。

（事務局）

〇あるかぽーと・唐戸エリアマスタープランの中で、ウォーターフロントの開発を進めようとしている。海響館と星野リゾートの周りの公共的な空間、施設と施設のつなぎ目となる緑地やボードウォーク部分を活用して賑わいを創出することを考えている。商店街においても、通りにベンチや憩いの場を作ったり歩道や公共空間を活用していくことを考えている。

（委員）

〇例えば釣り文化の進行、回遊性向上方策の実施など、少しわかりづらいと思う。もう少しわかりやすく記載するような形にはできないのか。

（事務局）

〇ご指摘の重点事業については、市民にわかりやすい表現になるようにし、用語が理解しにくい場合には想定事業を例示する。現在、整理中ですので３回目の部会にはお示しする。

（部会長）

〇釣り文化の振興とあるが、ここだけ具体的ではないか。マリンアドベンチャーではいけないのか。

（港湾局）

〇国の施策で下関港が「釣り文化振興促進モデル港」の指定を受けており、その言葉として使っており、具体的にはあるかぽーと地区などで年に数回イベントさせていただこうと思っている。まだ知られてないっていうところことは反省点ではあるが、皆様に理解をいただけるような表現は大事だと思うので記載は調整をさせていただきたい。

【第４節　連携・交流の推進】

素案を用いて、事務局より説明。

（委員）

〇質問　３０ページに海業とあるが、一般的な言葉か。以前はグリーンツーリズムと言われていたが、最近はそのような取り組みはないのか。

（農林水産振興部）

〇海業（うみぎょう）とは、漁村の施設をにぎわいに使っていこうという取組。レストラン等で交流拠点となること。読み仮名もあってもよいかもしれない。グリーンツーリズムについては、農業体験等もやっていく必要があるので、書きぶり等調整していきたい。

【第５節　国際化・多文化共生社会の推進】

素案を用いて、事務局より説明。

（委員）

〇多文化共生で、外国人労働者が増えている中で、子どもの教育についてどのように推進していくのか。35 ページに下関市立大学とあるので、日本から円安で留学することが難しくなっているので、支援できればと考えている。一方で海外からきている留学生をうまく活かせていないのではないか。もう少し交流などを持てると良いと思う。

（教育部）

〇日本語が話せない子どもに関しては、ポケトークを使用して対応している。具体的な記述は難しいと考えている。

（総務部）

〇35 ページの③下関市立大学における国際交流について、総合計画で市がどう取り組むかという点で、主語が市立大学になっているので、調整して文章は整理する。第４期中期目標に

おいて、国際交流の部分に対して、市としてどのように大学の方に協力してもらうかを整理していくものと考えている。実態として、留学に行けない、あるいは、海外からの留学生と地元の交流については別途協議を行う。

（事務局）

〇国際交流については、小中学生を海外派遣などしているが、多文化共生は子育てやＤＸのように１つの章や節で完結できる分野ではないと考えている。国際交流部分は２章に残し、多文化共生は７章（安全、安心、共生、協働）に移行したい。

【全体とおして】

（副部会長）

〇多文化共生において、日本語の不十分な留学生もアルバイトできるような環境を整備できれば良いと思う。北九州市ではアルバイトが充実しているとも聞くので、若い人が他自治体に流れる要因の一つになっている。

（委員）

〇人口減少に関して、移住定住の書きぶりが少ないので、もう少し充実させることを入れていくことが必要と考えている。移住定住のターゲットや取り組みの方向性はどのように考えているのか。

（事務局）

〇ターゲットの対象エリアについては、東京圏一極集中を解消するために、国も取組を進めていることから、市も諸制度を利用した取り組みを進めているところ。また、対象世代は、39歳以下の若い世代（子育て世代含む）の移住支援に取り組んでおり、移住者の家賃補助なども考えている。ご指摘のとおり、記載が不十分な点もあるので、委員からのご質問も踏まえ、素案を修正する。

（委員）

〇26 ページであるかぽーと・唐戸エリアマスタープランの推進となるが、下関にとって重要だと思うが、メンバー構成はどのようになっているのか。外部人材を取り入れて推進すると良いと思う。

（事務局）

〇「あるかぽーと・唐戸エリアマスタープラン」の推進は、民間の方も入れて協議体を作り、デザイン会議と推進会議を設置している。デザイン会議は、市場の関係者や環境の方、都市デザインの専門家、照明の専門家、交通対策の専門家で組成するなど、民間の方の知恵も借りつつ官民一体となって推進する。

（副部会長）

〇定住に関して、どこで出産し子育てをするのかが重要だと考えている。働く世代をどのよう

に支援していくかで差が出てくると思う。少しの時間でも子どもを預かってもらえるサービスなどを充実させることもポイントになると思う。

（事務局）

〇子育て世代の支援は、定住に大きく影響すると考えている。市もＲ５年度から子育て支援に力を入れて取り組んでいる。一時預かりやショートステイは本市でも実施しているので、広報に力を入れて取り組む。

（部会長）

〇27 ページの③ 交流拠点間の人流動線の確立について、課題は下関駅からどのように唐戸地区に行くかだと思う。どんなに施設やエリアを整備しても、動線（交通）こそ大事だと思う。にぎわいを考えるのであれば、もう少ししっかり記載するべきではないか。2km を歩かせるのは結構大変である。

（事務局）

〇下関駅からの動線は非常に重要なポイントだと考えており、去年はグリーンスローモビリティの実証実験をした。また、歩いて楽しくなる通りを作っていくこと、空き家とかをリノベーションして、通りのポイントに店を作っていくことで歩いていただけるような試みも色々検討する。

以上